中国四国農政局
ディスカバー
農山漁村の宝
選定地区

【お問い合わせ先】

中国四国農政局香川県拠点地方参事官室
〒760-0019　香川県高松市サンポート３番33号
☎087-883-6500

中国四国農政局農村振興部農村計画課
〒700-8532　岡山県岡山市北区下石井１丁目4番１号
☎086-224-4511（代表）

ディスカバー農山漁村（むら）の宝
（第８回応募団体）
取組事例集

香川県

令和４年３月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和３年度）で８回目となります。

中国四国農政局管内では171件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として７地区と２名が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区（者）の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として13地区と２名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として22地区を選定しました。

また、今年度応募のあった地区（者）の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。
各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html

令和４年３月
中国四国農政局農村振興部

目　　次

○ 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について ・・・・ 1

○ 応募地区（者）一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

○ 応募地区（者）位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

○ 応募地区（者）の取組事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

１．「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第８回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第８回選定）では、令和３年６月16日から８月31日までに、農山漁村活性化の取組として全国から651件（管内からは171件）の応募があり、令和３年11月19日に総理大臣官邸で開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第８回選定）有識者懇談会において、団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）で34地区と個人部門で４名が「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定されました。

中国四国農政局管内からは７地区と２名が選定され、その中から優秀賞の個人部に岡山県岡山市の「植田輝義」、優秀賞のコミュニティ部門に徳島県神山町の「神山しずくプロジェクト」、特別賞に広島県庄原市の「株式会社敷信村農吉」、徳島県阿南市の「黒川真太郎」、愛媛県伊方町「愛媛県立三崎高等学校『せんたんプロジェクト』」が選定されました。

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

２．中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった171件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和３年10月27日、中国四国農政局において選定委員会を開催し、13地区と２名を選定しました。

また、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として22地区を選定しました。

中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
オリジナルロゴマーク

３．管内選定地区（者）の概要

（１） 全国版選定（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第８回選定））

植田 輝義（岡山県岡山市） **優秀賞**

●地元特産の黄ニラと岡山パクチー大使として、メディアや祭への参加により産地を PR するとともに、学校、福祉、企業とも連携。
●岡山交通（株）とコラボし、「黄ニラタクシー」を誕生。タクシー乗務員への農業指導も実施。

2021 年国和産業株式会社コラボ
パクチーゼリー完成

草間台エコミュージアム推進協議会（岡山県新見市）

●草間台地の自然・産業・歴史文化等の宝物を発見し、それらを護るとともに発信し、地域振興に貢献。
●地域を自然、産業、歴史文化等の宝物にあふれる「エコミュージアム」（屋根のない博物館）と捉え、里山の維持保全等を実施。

小学生の洞窟探検

株式会社敷信村農吉（広島県庄原市） **特別賞**

●里山の自然を活かした保育所の運営を軸に、農産物やチーズの製造・販売等の地域密着型の事業を展開。
●保育所では、園庭での野菜栽培、自社農園の農産物を使った給食の提供など、「身土不二」を教育。

地元生乳 100%の手作りチーズは
国内外で高評価

株式会社 63Ｄnet（山口県長門市）

●地域食材を使った、コロナの状況でも強い商品づくりと幅広い販売チャンネルの確立により、地域事業者の収入確保に貢献。
●農業生産者が６次産業化を行うために必要な施設や専門知識・ノウハウを補完し６次産業化を支援する「ながとラボ」を運営。

地元産マルシェ「LaLa フラン」

黒川 真太郎（徳島県阿南市） **特別賞**

●農業・食品加工・販売の３本柱の小さな６次産業を実践するとともに、子育て環境の充実として学童保育を立ち上げ運営。
●環境保全型農業での農産物づくりを実践。お米の消費拡大のため、パンや菓子等の食品加工、全国の消費者へのネット販売も実施。

毎月 1 回 JRT（四国放送）ラジオで
活動等の情報発信

神山しずくプロジェクト（徳島県神山町） **優秀賞**

●山林課題の啓発活動、町産材を活用した商品開発・販売など、地元産業振興により地域活性化に貢献。
●スギの弱点とされる赤白の木目を活かしたデザインの木製品を開発。地域おこし協力隊制度を活用した職人育成事業も実施。

スギにしか出来ない赤白の柾目が
美しい木製品

「高松盆栽の郷」推進協議会（香川県高松市）

●国内外に向けた高松盆栽の情報発信と担い手の育成による JA 香川県「高松盆栽の郷」の発展に向けた取組。
●４ヶ国語対応のウェブサイト等により国内外に高松盆栽の紹介・販売を実施。令和２年度はオンラインでのオークション等を実施。

高松盆栽オークション
盆栽紹介ライブ配信

愛媛県立三崎高等学校「せんたんプロジェクト」（愛媛県伊方町）

特別賞

●高校生が主体となる地域の魅力開発及び発信により、伊方町の関係人口の増加と移住・定住者数の確保に貢献。
●全校生徒を PR 活動等、カフェ、商品開発、ツアー、アート、防災の６つのグループに分け探求活動を実施。

みさこう Café

吉延営農組合（高知県本山町）

●地域の持続可能な営農体制づくりに加え、棚田散策ツアーの実施など地域活性化を目指した幅広い活動を実施。
●集落一体となって防護柵の設置等の獣害対策を行っているほか、田んぼアートや棚田コンサート等の都市との交流事業も実施。

吉延集落の棚田

（２）地方版選定（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

株式会社大山こむぎプロジェクト（鳥取県米子市）

●鳥取県産の小麦「大山こむぎ」を生産し、地元を中心としたパン屋や飲食店をはじめ、学校給食にも供給。
●生産者の顔（名前）の見える商品展開を行い、生産農家の生産意欲を向上。小麦生産量の増加に取り組む。
●生産、製粉、流通と連携する鳥取県産小麦の地域商社。

創る会（利用者）と生産者の懇親会
～食べる会～

ふなおか共生の里づくり推進協議会（鳥取県八頭町）

●次世代への取組として保育園や小学校の田植え体験を実施。
●多面的機能支払制度の広域協定への参加により、地域の保全活動に取り組む。
●集落と協議会で実行委員会をつくり、交流体験農園や農泊の受け入れを行う。

交流体験で梅ぼりを教える

有限会社旭養鶏舎（島根県大田市）

●えごま玉子の生産と、自社工場で加工品（25 アイテム）の製造を行う。
●大学や病院と連帯し、えごま玉子を食べることの効果について検証。
●IT とオートメーション化、６次産業化を積極的に進め、社員の半数近くが女性。女性役員・管理職の登用も積極的に行っている。
●耕作放棄地を活用し、退職者や高齢者によるエゴマ栽培を行う。

えごま玉子

株式会社西粟倉・森の学校（岡山県西粟倉村）

●木材加工品づくりの製造工程で出てくる端材を、DIY ユーザーに一点モノ端材としてお値打ち価格で販売。
●人口約 1,400 人の村に 620 人も来客するような、モノづくり体験や端材の購入ができるイベントを開催（令和３年春に２日間開催）。

販売する端材製品のイメージ

万古渓養魚観光株式会社（広島県廿日市市）

●川と海の養殖業者が卵から成魚まで一貫生産し、１年目の種苗から海面飼育した大型種苗により成魚の早期出荷と大型化を実現。
●養殖場に釣堀を設置。釣った魚をその場で楽しめる食事処を併設。
●市内の短期大学と連携し、「誰でも気軽に食べられるニジマスレシピ」を考案。魚食普及に取り組む。

子供から大人まで楽しめる釣堀施設

FAM’Ｓキッチンいわくに（山口県岩国市）

●直売所における独自の集出荷システムを用い、岩国地域全域から出荷しやすい体制を整備。
●店舗まで生産物を持ち込めない生産者のため、巡回トラック２台により毎日集荷。
●陳列エリアを生産者に割り当て、自ら創意工夫した販売を展開。
●売り切れなかった商品を子供食堂に提供。

遠隔地の産物を集約する巡回トラック

梅川 仁樹（山口県岩国市）

●わさびの超促成栽培について検証し、収益性の高い栽培技術を確立。
●県農業士協会のリーダーとして、新規就農者等の支援に取り組む。
●人・農地プラン等の話し合いに積極的に参加し、地域住民と課題や問題解決の共有を図る。
●地元小学生に神楽を伝承し、伝統文化（向峠神楽）の継承に務める。

山口県農業士協会による研修

吉田 ますみ（徳島県美馬市）

●耕作放棄地となっている茶畑再生と、集落のブランディングプロジェクトに取り組む。
●未来の子供たちへ世界農業遺産に選ばれた農耕システムの継承と新しい農文化を生み出すふるさと協働事業に取り組む。
●緑茶に関わる人々を増やし、その魅力や活動で感じたものを発信。

地元穴吹高校生との茶染め体験

（株）フードハブ・プロジェクト（徳島県神山町）

●「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
●新規就農者の受入や、子供の農業生産、加工、販売等の体験を実施。
●地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

地域のみんなでつくる加工品の開発・製造

大野豆プロジェクト（香川県高松市）

●休耕田を活用して夏は大豆・黒豆・小豆、冬は空豆（一寸及び「大野豆」）を栽培し、年間合計約 1.5ｔを販売。
●地元児童・生徒による豆栽培、豆腐・しょうゆ豆づくり体験を実施。
●地元産の豆類を使った「豆 de 家庭料理コンテスト」を実施。

大野小 5 年生児童の「大野豆」収穫作業

みとよのみプロジェクト（香川県三豊市）

●三豊市と地元生産者が連携して市内の魅力的な農産物の６次産業化や地域産品の開発に取り組み、地域農水産物のブランド化を推進。
●生産者と商品を掲載した HP の制作や SNS 等により情報発信を行う。
●展示会、商談会への参加やフェアを開催。

みとよのみプロジェクトで開発された商品

チームそら豆（香川県小豆島町）

●そら豆醤油の原料となる国産の乾燥ソラマメがなかったため、農商が連携して原料を生産。
●需要の増加に伴い、地域の特産品としての製造を維持していくために、原料の生産拡大を行う。
●良いものを生産するためにほ場巡回や講習会を行うとともに、生産者と収穫物の全量買い取りの契約を結ぶ。

アレルギーフリーのそら豆醤油

愛媛県立川之石高等学校 GAP チーム（愛媛県八幡浜市）

●グローバル GAP 認証を取得した柑橘を使って、世界マーマレード大会へ出品。
●柑橘や柑橘加工品の輸出、GAP 認証取得、GAP 学習会、販路学習などを地元企業 3 社と連携して実施。
●被災柑橘農家応援のため、地元や東京で復興マルシェイベントに参加。
●大学や農業大学校の職員を講師に招き、柑橘園付近の鳥獣害対策について学習すると共に生物調査を実施。

柑橘 11 品目でグローバルGAP認証取得

愛媛県立八幡浜高等学校商業研究部 A★KIND（愛媛県八幡浜市）

●八幡浜市に水揚げされる「未利用魚」の活用を考案。
●魚食の普及活動として、未利用魚を使った学校給食のメニューの考案や、クリアファイルで魚食マップを作成して配布。
●未利用魚の定食提供ツアーの実施や、地元日曜市等のイベントでの販売活動を実施。

小学生との給食交流会

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部（高知県高知市）

●高校生が鳥獣被害という課題解決に向けてジビエ利活用商品を開発。
●高知県産の赤牛や規格外野菜を使用したジビエ商品を考案し、高校生ジビエ・レストランを出店して提供。
●販売利益をシカなどの食害を受けた森林保護活動に寄付するとともに、植樹活動にも参加。

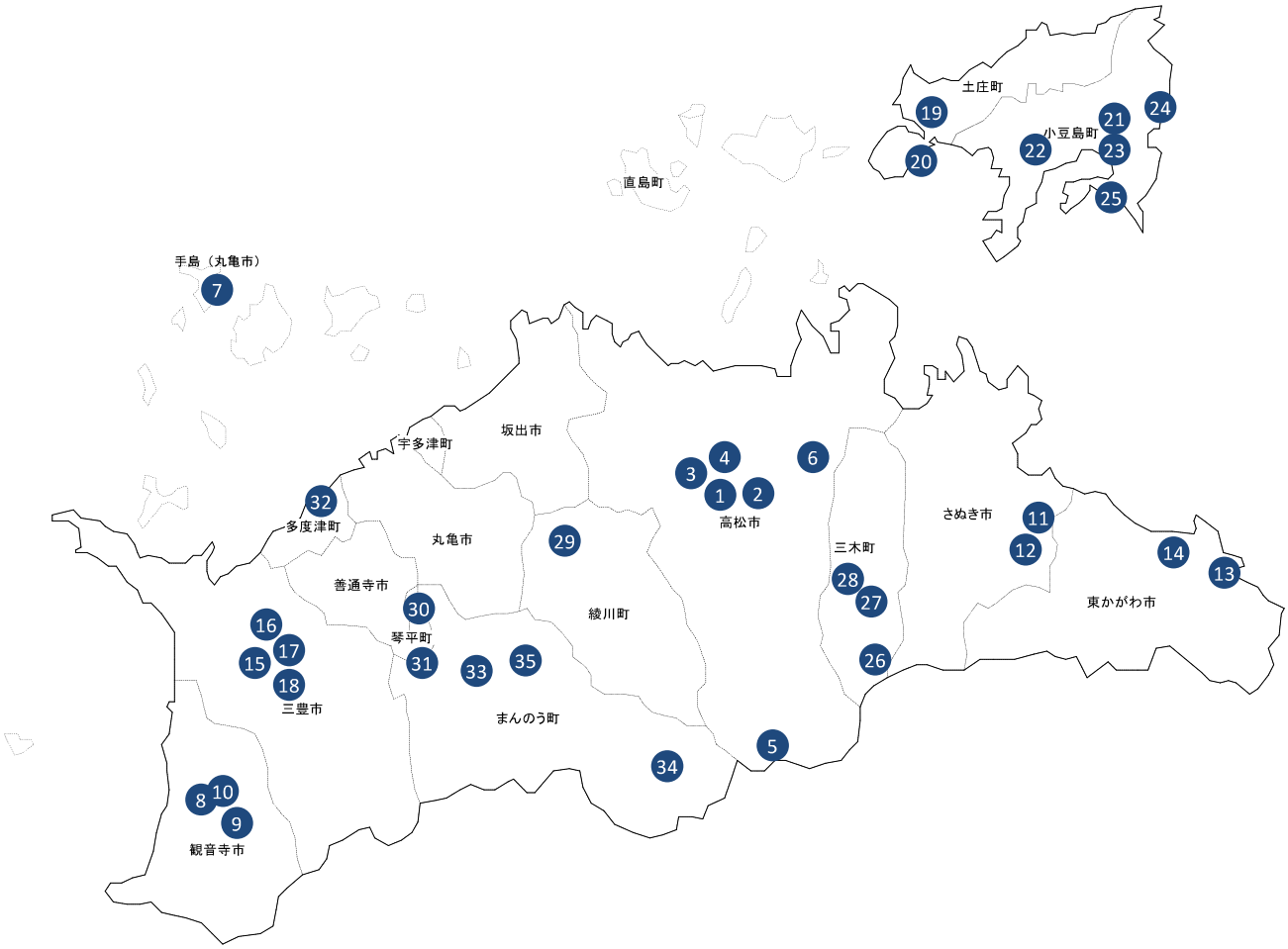
高校生ジビエ・レストラン出店

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第8回選定） 応募地区（者） 一覧 （香川県）

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	高松市	大野豆プロジェクト	6次産業化	伝統の継承	ー
②		コミュニティ	高松市	香川県三郎池土地改良区	環境保全・景観保全	教育機関との連携	ー
③		ビジネス	高松市	讃岐国分寺あんず事業振興会	農林漁業	6次産業化	耕作放棄地対策
④		ビジネス	高松市	「高松盆栽の郷」推進協議会	農林漁業	輸出	伝統の継承
⑤	奨励賞	コミュニティ	高松市	特別非営利活動法人　奥塩江交流ボランティア協会	農林漁業、農村文化体験	環境保全・景観保全	伝統の継承
⑥		コミュニティ	高松市	特定非営利活動法人　香川県社会就労センター協議会	雇用	農福連携	高齢者の活躍
⑦		コミュニティ	丸亀市	塩飽部隊	農村文化体験	教育機関との連携	女性の活躍
⑧		コミュニティ	観音寺市	大野原地域資源保全会	環境保全・景観保全	食育・教育	ー
⑨		ビジネス	観音寺市	五郷里づくりの会	農泊	伝統の継承	里山歩き、地元食材の利用、観光
⑩		コミュニティ	観音寺市	油井水土里保全組合	農林漁業	環境保全・景観保全	食育・教育
⑪		コミュニティ	さぬき市	豊田協定	6次産業化	耕作放棄地対策	鳥獣被害防止
⑫		コミュニティ	さぬき市	南川自然薯研究会	農林漁業	食育・教育	高齢者の活躍
⑬		ビジネス	東かがわ市	株式会社ソルトレイクひけた	地産地消	伝統の継承	食育・教育
⑭		コミュニティ	東かがわ市	三高みんなの食堂プロジェクト（香川県立三本松高等学校）	地産地消	教育機関との連携	学生・若者の活躍
⑮		コミュニティ	三豊市	笠田高校　農産科学科3年野菜専攻	農林漁業	耕作放棄地対策	学生・若者の活躍
⑯		コミュニティ	三豊市	下高瀬子どもすこやかボランティア	伝統の継承	教育機関との連携	食育・教育
⑰		コミュニティ	三豊市	みとよのみプロジェクト	農林漁業	6次産業化	地域活性化
⑱		コミュニティ	三豊市	山本町環境保全会	地産地消	耕作放棄地対策	食育・教育
⑲		コミュニティ	土庄町	小豆島陽当の里伊喜末	6次産業化	農林漁業、農村文化体験	鳥獣被害防止
⑳		コミュニティ	土庄町	NPO法人 オリーヴ生活文化研究所	農林漁業	企業との連携	地元のオリーヴ農園の活用とオリーヴ文化を伝える取り組み
㉑		コミュニティ	小豆島町	小豆島町漁業振興協議会	農林漁業	食育・教育	ー
㉒		コミュニティ	小豆島町	小豆島町中山棚田協議会	棚田保全	耕作放棄地対策	環境保全・景観保全
㉓		コミュニティ	小豆島町	チームそら豆	6次産業化	企業との連携	高齢者の活躍
㉔		コミュニティ	小豆島町	東條地域農業集団	鳥獣被害防止	食育・教育	女性・高齢者の活躍
㉕		ビジネス	小豆島町	まめまめびーる（合同会社ナカタ）	6次産業化	地産地消	耕作放棄地対策
㉖		ビジネス	三木町	株式会社　山南営農組合	6次産業化	農泊	教育機関との連携
㉗		コミュニティ	三木町	丸岡活き生きクラブ	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍
㉘		コミュニティ	三木町	三ツ子石池資源保全組合	環境保全・景観保全	食育・教育	高齢者の活躍

㉙		個人	綾川町	稲木健造	農泊	教育機関との連携	企業との連携
㉚		コミュニティ	琴平町	苗田東環境保全の会	移住・定住	環境保全・景観保全	食育・教育
㉛		コミュニティ	琴平町	満濃池土地改良区	伝統の継承	食育・教育	ー
㉜	奨励賞	コミュニティ	多度津町	香川県立多度津高等学校建築科	鳥獣被害防止	教育機関との連携	学生・若者の活躍
㉝		ビジネス	まんのう町	一般社団法人サンフラワーまんのう	耕作放棄地対策	雇用	農家所得の向上
㉞	奨励賞	コミュニティ	まんのう町	島が峰の原風景を守る会	6次産業化	棚田保全	耕作放棄地対策
㉟		コミュニティ	まんのう町	帆山地域保全活動組織	農林漁業	6次産業化	環境保全・景観保全

応募地区（者）位置図（香川県）



1 香川県高松市（たかまつ）

6次産業化　伝統の継承

大野豆（おおのまめ）プロジェクト

～「大野豆」復活と次世代への継承活動～

大野小5年生児童の「大野豆」収穫作業

豆de家庭料理コンテストと受賞料理

経　緯

○大野地区はかつて豆の名産地だったが、時代とともに廃れていった。讃岐長莢空豆（通称「大野豆」）の生産復活を願う有志35名が、休耕田約50aを活用してプロジェクトを開始した。
○販売先の（有）筒井製菓に加え、「まめっ子」と称される地元の児童・生徒も参加し、活動の輪が広がっていった。

取組内容

○夏は大豆・黒豆・小豆を、冬は空豆（一寸及び「大野豆」）を栽培し、年間合計約1.5tを販売。
○広報等で継続的に成果を報告するとともに、大野豆の栽培体験を「大野豆復活物語」や「6次産業化事例」として公開講座や交流会等で発表。
○地元の児童・生徒が豆栽培、豆腐・しょうゆ豆づくりを体験。
○地元産の豆類を使った「豆de家庭料理コンテスト」を実施。

活動の効果

○耕地面積は約70aとなり、伝統ある讃岐の田園風景の復活に貢献できている。
○（有）筒井製菓で製造されている国産の豆菓子「大野豆」（フライビーンズ）は、優れた品質で国産品志向の顧客から高い評価を受けている。
○地元の児童・生徒が地域のことを知り、プロジェクト活動を広げる核となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

プロジェクトを継続しつつ、より若い世代への継承につながるように、「大野豆」の地理的表示保護制度登録を目指します。

高松市香川町大野1329-1　Tel：087-886-1960

2 香川県高松市（たかまつ）

環境保全・景観保全

教育機関との連携

香川県三郎池土地改良区（かがわけんさぶろういけとちかいりょうく）

～多面的機能を有するため池との良好な共存～

クリーンアップ作戦

淡水魚の生態説明会

経　緯

〇ゴミの不法投棄や水質の悪化が問題になっていた。
〇堤防エリアを公園整備したことや、近傍にある日山の登山道を整備したことで利用者が増え、ゴミ対策と景観保全が課題となった。
〇地域住民、児童、高校生などの協力を得て、平成22年からクリーンアップ作戦を展開することにした。

取組内容

〇３年に１度、池干しの落水にあわせてクリーンアップ作戦を実施。開始当時は約4トンものゴミを回収した。
〇平成25年から、小学生の校外授業として三郎池に住む生物について、淡水魚の専門家を招いて説明会を実施している。
〇地元小学校で出前授業を行い、地域外から遠足で訪れる小学生には、ため池の役割等を説明している。

活動の効果

〇クリーンアップ作戦により水質改善がみられるようになり、アオコも減少して異臭がなくなった。
〇貯水量170万トンを超える三郎池の多面的機能について地域住民の理解が進み、緊急時の避難経路等について三郎池の存在を意識した計画が策定できた。
〇池干し時に外来種の生物を駆除することができ、捕獲したスッポンがジャンボタニシの駆除に有効であることが分かった。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成22年から続けているクリーンアップ作戦の活動をさらに活発化したい。今後も地域の方と連携して、ため池の重要性をPRしながら適切な維持管理に努めたい。

高松市三谷町2286-3　Tel：087-889-0005

3 香川県高松市（たかまつ）

農林漁業 | 6次産業化 | 耕作放棄地対策

讃岐国分寺あんず事業振興会（さぬきこくぶんじあんずじぎょうしんこうかい）

～ 人集う笑顔あふれるあんずの里づくり～

あんず花祭り

あんずの加工品

経　緯

○増加する休耕地を活用して町おこしをしようと考えていた。
○讃岐国分寺ができた奈良時代に中国から入ってきたとされるあんずに目をつけ、あんずの里として6次産業化ができればと有志29名が会を立ち上げた。

取組内容

○会が中心となってあんずの産地化を推進。町おこし産品として加工や販売に取り組み地域の活性化を図る。
○「あんず花祭り」を開催し、あんずの加工品の紹介と販売を行う。
○栽培技術等の意見交換会を実施。
○道の駅や東京のアンテナショップ、地元の洋菓子店等に果実を出荷。

活動の効果

○メディアに取り上げられ、「あんずの食文化」への関心や認知度の向上に繋がった。
○「あんず花まつり」の来場者は年々増加しており、新商品の販売も好評を得ている。
○地元洋菓子店の（株）シカが、あんずを使用して製造したソフトグミ「瀬戸のめぐみ」が、「かがわ県産品コンクール　知事賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

高品質なあんずを安定して生産しながら、オンラインショップの開設や収穫体験なども計画し、地域住民と交流しながら「あんずの里のふるさとづくり」を促進していきたい。

高松市国分寺町国分920　Tel：087-874-1127

4 香川県 高松市（たかまつ）

農林漁業 | 輸出 | 伝統の継承

「高松盆栽の郷（たかまつぼんさいのさと）」推進協議会（すいしんきょうぎかい）

～高松盆栽を世界へ！！盆栽エクスペリエンス～

高松盆栽デモンストレーション　ライブ配信

拠点施設「高松盆栽の郷」 と　箱盆（和三盆）

経　緯

○国内需要が伸び悩み、価格の低迷等で後継者不足も深刻であったが、逆に海外では盆栽の人気が急速に高まってきていた。
○産地の生き残りをかけて輸出促進・需要拡大に向けた情報発信、担い手育成を行い、地域のブランド化を目指す。

取組内容

○情報発信拠点として観光客等が気軽に立ち寄って見学・体験・購入ができる施設をつくり、ウェブサイトを立ち上げた。
○「高松盆栽学校」や「BONSAI技術研修」、地元小学生への栽培指導等により愛好家の確保や後継者の育成に努める。
○「高松盆栽の郷フェスタ」や「盆栽新商品コンテスト」を実施して、知名度向上を図る。

活動の効果

○ 4か国語に対応したウェブサイトには50か国以上からアクセスがあり、世界中から関心を集めている。
○盆栽生産者が栽培管理技術を教える「高松盆栽学校」は、小学生を含む県内外の幅広い世代が受講している。
○実演のライブ配信やオークションなど、オンラインでも楽しめるイベントには多数の参加があった。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国でも珍しい松の畑が広がる鬼無町と国分寺町は、松盆栽の全国シェア8割を占めている。今後も盆栽の魅力を「高松盆栽の郷」から国内外にPRしていきたい。

高松市国分寺町国分353-1　Tel:　087-874-2795

5 香川県高松市（たかまつ）

農林漁業、農村文化体験 | 環境保全・景観保全 | 伝統の継承

奨励賞

特定非営利活動法人　奥塩江交流ボランティア協会（とくていひえいりかつどうほうじん　おくしおのえこうりゅうきょうかい）

～スローライフを楽しみながら持続可能な社会に貢献～

茶畑の再生作業（楽農人事業）

わら草履の作成（環境フォーラム事業）

経　緯

○かつては木・炭・農産物の供給地や交通の要所として賑わっていたが、過疎化が進み、小・中学校も廃校になって地区の活気が失われた。
○賑わいを取り戻そうと、有志20名が中心となり地区の活性化を目的として2006年に「奥塩江交流ボランティア協会」を設立した。

取組内容

○地元で採れた食材を使った調理・食事会や、様々な分野のゲストを招いたイベントを行う「まんぷく会」を毎月開催している。
○かつて地域で中核的な特産物であった茶の復活のため、「楽農人事業」として耕作放棄地となっていた茶畑を再生した。
○奥塩江地域の特徴を活かして環境保護意識を高める活動の一環として、地域の子供たちとわら草履の作成をしている。

活動の効果

○現在はお茶だけでなく、ソバや野菜の栽培も始め、少しずつ耕作放棄地を減らすことに貢献している。
○中学校跡の木造講堂と大木が残る「モモの広場」に人々が集い、スローライフを楽しむことが、持続可能な社会の実現を目指すボランティア活動の基盤になっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「楽農人事業」が注目されています。農業経験がなくても楽しみとして農業に関わる人が増えることは、環境や暮らし方への意識を高めることにも役立ちます。奥塩江の豊かな自然の中で「のんびり、ゆったり、心ゆたかに」活動しています。

高松市塩江町上西甲77　Tel:080-5665-1614

6 香川県高松市（たかまつ）

雇用　農福連携　高齢者の活躍

特定非営利活動法人（とくていひえいりかつどうほうじん）　香川県社会就労センター協議会（かがわけんしゃかいしゅうろうきょうぎかい）

～障がい者と農業者の架け橋として～

農福連携の体系図

農作業体験会（キャベツの収穫）

経　緯

○農家の高齢化が進み、後継者不足のために作付面積が減少した。
○障がい者福祉施設では、受託作業の減少や自主製品の販売不振から収益が減少し、一人あたりの月平均工賃が1万円台と低迷。
○農福連携によって双方にとってプラスになる取組がスタートした。

取組内容

○平成23年から、NPO法人香川県社会就労センター協議会に「共同受注窓口」を設置し、農作業請負のマッチングを行う。
○障がい者の工賃向上を図るため、作業の種類や量を見直し、工賃の値上げ交渉の実施。
○農作業に参加する障がい者施設を増やすため、現場で細かな支援ができるよう農福連携支援員やジョブコーチを委嘱。

活動の効果

○現在、施設外就労に年間延作業人数約13,600人が参加。
○施設利用者の作業工賃は年々増額。利用者も「やればできる」という体験から働く意欲が湧き、更には、働く姿が認められて一般就労へと進む者も現れた。
○「ノウフク・アワード2020　審査員特別賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

参加する福祉施設を増やし、継続して農作業に取り組めるように現場で細やかな支援を行っていきたい。また、特別支援学校等の生徒を対象に農作業の体験学習を実施したい。

高松市元山町1193－2　Tel：　087-813-1420

7 香川県丸亀市（まるがめ）

農村文化体験　教育機関との連携　女性の活躍

塩飽部隊（しわくぶたい）

～瀬戸内海の島はSDGsラボ～

京大生と香川本鷹栽培農家による現地指導

プロモーションフィルム制作

経　緯

○手島は周囲10キロ、人口わずか15人で、高齢化率は90%。
2016年11月に3人の京大農学部学生と島を訪問。島に生きる人たちの力強さに感銘を受け、塩飽諸島を盛り上げるための活動が必要だという思いを抱く。
○手島を自然循環のモデルアイランドにしようと、島民、京大生、NPO「四国夢中人」によって任意団体「塩飽部隊」を設立。

取組内容

○幻の唐辛子「香川本鷹」の生育過程を実地体験。香川本鷹レシピ集を作成し、香川本鷹カレー試食会を実施。
○離島で初めて竹林伐採を実施し、伐採した竹のチップでカブト虫の幼虫を飼育。
○丸亀養護学校から提供された花の苗を休耕田に植栽し、フェリー乗り場から島の中心部までフラワーロードを形成。
○急激に人口減少する島の歴史や暮らしを後世に残すためにカナダ人YouTuberによる英語版の手島プロモーションフィルム制作。

活動の効果

○様々な分野の若者が交流しながら、島民の要望に沿った取組を実施。これらの活動を英語版YouTubeを通じて国内外に発信することで、メディアにも取り上げられ、「手島」の認知度が高まった。
○春、夏、秋の四季折々の花が島のメイン道路で咲き、島民たちに癒しと賑わいを与えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

島の自然環境を生かしながら、若者たちが教室では得られないアカデミックな体験ができる島づくりを目指してきました。「自然と人との調和」が改めて見直されている今、人類にとって「豊かさ」とは何か、島民の暮らしを取材し、新たな生き方を考察していきます。

丸亀市7番丁71　Tel:　0877-23-7262

8 香川県観音寺市（かんおんじ）

環境保全・景観保全

食育・教育

大野原地域資源保全会（おおのはらちいきしげんほぜんかい）

～環境保全活動で地域住民交流・連携を図る～

親子で協力して草取り清掃

公共エリアに植栽して景観整備

経　緯

○地域の国道、県道沿いで水路や農地に空き缶等の投げ捨てが多く、その対応に苦慮。
○平成26年度より多面的機能支払事業に取り組む。地域の環境保全活動を通して地域住民が交流・連携することを目的に、子供会も含めた清掃作業を行い、地域を守る人間形成を目指す。

取組内容

○地域内にある子供会に呼びかけ、子供達を中心に親子でのゴミ拾いやカーブミラーの清掃等の環境保全活動を実施。
○公共エリアに植栽するなどの景観整備を行う。

活動の効果

○子供達が地域の人々と活動を行うことで顔見知りになり、挨拶ができるようになった。大人もどんな子供が住んでいるのかわかり、声かけするなど防犯上の効果が見られるようになった。
○住民の間に地域を良くしようとする意識が高まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

子供の人数が減少している状況ではあるが、地域全体に呼びかけて清掃活動だけでなく公共エリアの景観整備などにも活動を広げ、参加者や親子が相互の信頼を深めて協力しながら住みよい地域環境を整備していきたい。

観音寺市大野原町大野原1368-1　Tel：　0875－54－2035

9 香川県観音寺市（かんおんじ）

農泊 | 伝統の継承 | 里山歩き、地元食材の利用、観光

五郷里づくりの会（ごごうさと　かい）

～GOGO五郷！文化は山から降りてくる～

手づくりのピザ石窯・建屋

里山歩き

ミカン狩り体験

経　緯

○人口減少や高齢化が進む中、市町合併による地名の消失や小学校の廃校により地域コミュニティの存続が危ぶまれていた。
○平成23年、地域活性化に寄与するため、活動の母体となる「五郷里づくりの会」が発足。

取組内容

○地域活性化のシンボルとして「五郷水車」を復活させ、「水車米」の精米、そば粉作りなどに活用。
○手づくりのピザ石窯でのピザ作り、そば打ち、ミカン狩り体験等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。
○地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、郷土料理でもてなす5コースの里山歩きツアーを開催。
○HPやSNS、「里づくり新聞」で情報を発信。

活動の効果

○活動が広まるにつれて地域住民の理解が深まって、団結力が一層強まった。
○郷土料理（こもけ団子汁）は多くの方から好評を得ており、ピザ作り、そば打ち、みかん狩り体験等も人気を呼んでいる。
○五郷地区の知名度が上がり、豊稔池などを訪れる人が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の自然、産業、食、歴史、文化等の資源を活かし「人が輝く里山づくり」を目指して活動している。　HP：http://gogou.jp/　FB：五郷里づくりの会

観音寺市大野原町井関538－4　Tel：　0875－54－3984

10 香川県観音寺市（かんおんじ）

農林漁業 | 環境保全・景観保全 | 食育・教育

油井水土里保全組合（ゆいみどりほぜんくみあい）

～各種団体の連携、協力による農村環境づくり～

アサギマダラの飛来

遊水池の清掃・泥上げ

経　緯

○圃場整備をきっかけとして、高齢化や農地の宅地化に伴う遊休農地の解消と、受け継いできた水資源の維持管理を図るため、「油井水土里保全組合」が発足。
○地域の環境保全には新興住宅地の若い世代の協力が必要であり、地域住民の意識を高めて協力体制をつくることが求められていた。

取組内容

○旧五兵池を公園整備して、桜、藤、梅などを植栽しビオトープを造成。平成29年よりアサギマダラを呼び寄せるためにフジバカマを栽培。
○広庄池、遊水池の堤防にアジサイなどを植栽。水資源の環境保全のため、藻の除去や水路清掃等の保守作業を定期的に行う。
○スポーツ大会や花見、いきいきふれあいサロンなどを通じて三世代交流の活性化を図る。

活動の効果

○昨年秋に初めてアサギマダラの飛来を確認した。
○交流が深まって、自治会、老人会、子供会などの各種団体と連携・協力体制ができ、地域の環境作りに役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

老若男女が連携・協力して、この地域を住みよく、楽しく、美しくし、旅をするチョウ「アサギマダラ」が飛び交う憩いの場として、多くの人に訪れてもらいたい。

観音寺市柞田町乙2780－2　Tel:　0875－25－2292

11 香川県さぬき市

6次産業化　耕作放棄地対策　鳥獣被害防止

豊田協定（とよたきょうてい）

～被害をゼロに！「集落ぐるみ」で獣害対策～

侵入防止柵設置で野生獣を寄せ付けない

「集落ぐるみ」で元気に草刈り作業

経　緯

○平成8年頃にイノシシやサルによる農作物被害が集落全体で認められるようになった。
○獣害の影響から営農を諦める者も出て、集落中央部に位置する基盤整備田でも休耕地が発生し始めた。
○平成17年に集落の存続に危機感を抱いた有志数名が、「集落ぐるみでの獣害対策」の実施を非農家も含めた全員に呼びかけた。

取組内容

○集落の周囲約7㎞を囲む野生獣の侵入防止柵を設置し、除草作業等、非農家を含む全戸が維持管理に携わる。
○野生獣の侵入情報を狩猟者へ迅速に伝達することで、捕獲の効率化を図る。
○営農集団を設立して、農作業受託を推進しながら酒米を作付けし、所得向上と地域の特産物作りを目指す。

活動の効果

○平成23年度以降、農作物被害がほとんど認められなくなり、休耕地1.2haを復田。集落内で住民相互のつながりが強まった。
○取り組みが県内外の先進事例となり、多くの自治体等が視察に訪れるようになった。
○非農家を含む全戸が侵入防止柵施工、維持管理に携わる事で関心や責任感を形成。野生獣の侵入情報等の共有化が早まり、効率的な獣害捕獲につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「獣害対策」という共通の関心事によって、話し合い、助け合う集落本来の姿が戻ってきました。これからも「集落ぐるみ」で、魅力ある集落を次世代へ引き継ぐ取組を継続したいと考えています。

さぬき市大川町田面2094-2

12 香川県さぬき市

農林漁業 | 食育・教育 | 高齢者の活躍

南川自然薯研究会（みなみがわじねんじょけんきゅうかい）

～「特産の自然薯」で地域おこし、全国発送へ～

南川じねんじょまつり

中学生との自然薯堀り体験学習

経　緯

○昭和62年、農家の有志32名が転作作物として自然薯栽培を開始。
○平成元年４月に「南川自然薯研究会」を設立。
○品質の向上に向けて試行錯誤を繰り返し、今では県内外でも有数の産地となる。

取組内容

○栽培圃地巡回研修や県外の先進地視察の実施。
○地域の一大イベントとして「南川じねんじょまつり」を開催し、自然薯を使った料理コンテストなどを実施。
○中学生等の自然薯掘り体験学習の実施。
○地元での直売、全国への宅配、各種イベントへの出店など、積極的に販路を拡大。

活動の効果

○地域高齢者の生きがい対策と地域を元気にする起爆剤となっている。
○消費者との信頼関係を構築しており、令和２年度は収穫した2,380kgが完売となった。
○「じねんじょまつり＆収穫感謝祭」を毎年12月に開催し、地域内外の人々と交流を深めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

生産が追いつかないほどの需要があるため、生産量を拡大するためにも関係機関と連携して後継者の育成に取り組んでいきたい。

さぬき市大川町南川1317番地2　Tel：0879-43-4066

13 香川県東かがわ市（ひがし）

地産地消　伝統の継承　食育・教育

株式会社ソルトレイクひけた（かぶしきがいしゃ）

～ハマチ養殖発祥の地、安戸池で、海と魚と友達になろう～

ハマチの解体実演

校外学習

経　緯

○東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池（あどいけ）」に漁業体験施設「マーレリッコ」を建設する際に、施設の管理運営を担う組織として設立。
○養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰤」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

取組内容

○学習体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等と連携しながら、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。
○地域イベントに積極的に参加して施設をPRし、知名度を高める。
○スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に向けて魚食教育を行う。
○ハマチの解体実演や通信販売、非接触決済ツールの導入による販促活動を実施。

活動の効果

○活動が評判になり、知名度が向上してイベントなどに声がかかるようになった。多くの小学校等の校外学習の受け入れにもつながっている。
○出張して食育教室やハマチの解体実演を行う機会が増えて、魚食教育にも力をいれるようになった。様々な場面に対応するため、知識を蓄える努力をしている。
○外国からの旅行者にも好評を博している。

応募団体からのアピール・メッセージ

外国からの来館者も増えているので、今後は館内表示やHPも分かりやすいように改善し、英語で説明ができるようスキルアップして満足度の向上を目指したい。

東かがわ市引田4373　Tel：0879-33-2800

14 香川県東かがわ市（ひがし）

地産地消 | 教育機関との連携 | 学生・若者の活躍

三高みんなの食堂プロジェクト（香川県立三本松高等学校）

（さんこう　しょくどう　かがわけんりつさんぼんまつこうとうがっこう）

～高校生が地域と作る新たな学食とまちの未来～

地元食材をふんだんに使った日替わり定食

梅ジュース用の果実収穫

経　緯

○食堂の運営が厳しく、継続が難しい状況だったが、新たな仕組みを作れば大きな可能性があると考えた。
○地域の資源を活かし、生徒が主体的に活動 して地域と共に食堂運営に関わることで、学びと交流の場となり地域の将来を担う人づくりにつながる食堂にした。

取組内容

○農事組合法人「福栄中央」が地元食材を活用した食事を提供。
○全校生徒が参加者で、自主的に活動するリーダーが中心となり広報活動やメニューの提案、校内に整備した畑での野菜作りなどに取り組む。
○地元の飲食店に「一日食堂」として出店してもらったり、料理人からメニュー開発の指導を受けるなど、地域と生徒が連携して交流を深めている。

活動の効果

○生徒は自分たちの力で思った以上のことができることに達成感を覚え、自主的な活動で得られるやりがいや、地域に支えられるありがたさを感じている。
○地産地消を促進しつつバランスの良い食事が摂れることや、日替わり定食のみにして食品ロスを出さないようにしていることなどはSDGsの観点からも有意義である。
○マスコミ等に取りあげてもらい地域に喜んでもらうとともに、生徒の活動による様々な賞を受賞している。

応募団体からのアピール・メッセージ

日々の活動を通して生徒が地域の良さと自らの力を実感し、将来のコミュニティーづくりに進んで関わる意識が育つ取組。今後、地域の拠点となるよう広げていく。

東かがわ市三本松1500-1　Tel：0879-25-4147

15 香川県三豊市（みとよ）

農林漁業 | 耕作放棄地対策 | 学生・若者の活躍

笠田高校（かさだこうこう）　農産科学科（のうさんかがくか）3年野菜専攻（さんねんやさいせんこう）

～薬用作物を利用して、健康で元気な三豊市へ！ ～

市長と一緒に収穫実習

地元小学校での普及活動

経　緯

○三豊市は耕作放棄地の有効活用や農家の所得向上のため、薬用作物の普及に取り組んでいた。
○令和2年に市と連携協定を結んだことから、合同で生薬栽培の研究を行い、地元農業の活性化や市民の健康意識向上を目指して活動を始めた。

取組内容

○実証栽培実験を行い、三豊市に合う作物の種類や栽培方法について研究。センサー等を用いる「スマート農業」も実践している。
○子どもたちに薬用作物を身近に感じてもらうため、比地大小学校と連携してトウガラシと除虫菊を栽培。
○収穫した薬用作物を使った製品作り。
○地元栽培農家との交流。

活動の効果

○メディアに取り上げられて薬用作物の栽培に注目が集まり、昨年11軒だった栽培農家が今年度は34軒まで増えた。
○ミシマサイコ、ヤマトトウキ、トウガラシが順調に生育した。採取したヤマトトウキの種子は農家に配布して栽培してもらう予定。トウガラシを使って作った薬用入浴剤は大好評だった。

応募団体からのアピール・メッセージ

笠田高校は地元農家と生薬取扱業者をつなぐパイプ役を担っている。薬用作物を通じて三豊市が元気になるような活動を続けていきたい。

三豊市豊中町笠田竹田251　Tel：0875-62-3345

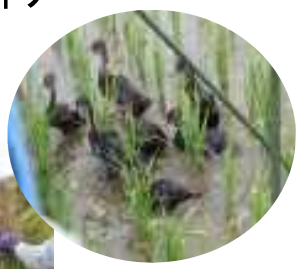
16 香川県三豊市（みとよ）

伝統の継承 | 教育機関との連携 | 食育・教育

下高瀬（しもたかせ）子どもすこやかボランティア

～アイガモと昔の道具で米作りボランティア～

「おいでまい」をアピールして販売



昔ながらの米作りを体験

経　緯

○米の減反政策が行われていた27年前、休耕田の有効活用を考えていた代表と下高瀬小学校職員の思いが一致し「下小子どもすこやかファーム」が誕生した。
○子どもたちに何か役立つ農業体験をさせたいと思った代表夫妻が水田を学校田として貸し出し、稲作指導を始めた。

取組内容

○年間を通して、子供たちの米作り体験学習を支援。
○昔ながらの道具を使った手作業での農業体験を実施。
○アイガモを田んぼに放して環境にやさしいお米を有機栽培。
○「大坊市」（よろず市）で栽培した「おいでまい」を販売し、その取組を紹介。
○収穫した米や野菜を使っての調理やもちつきなどのイベント実施。

活動の効果

○年間を通しての米作り体験学習などで、児童は育てる仕事の大変さ、昔の人の知恵や工夫、命と食のつながり、感謝する心など多くのことを学んでいる。SDGsの視点からも意義が大きい。
○長年にわたる活動は、地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールの具体的な姿の一つとして、重要な役割を果たしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

メンバーは子供たちの笑顔のために長年頑張っている。今後も子どもたちや先生方と感動を分かち合い、このやりがいのある活動を続けていきたい。

三豊市三野町下高瀬2096　Tel：0875-72-5384

17 香川県三豊市（みとよ）

農林漁業　6次産業化　地域活性化

みとよのみプロジェクト

～みとよのとくべつよりすぐり 地域ぐるみで地域産品づくり～

販売促進フェア

開発された商品

経　緯

○「フルーツ王国みとよ」と呼ばれるほど果物や野菜が豊富な地域だが、それを活用した地域産品がなかった。
○平成31年に三豊市と生産者を中心とした地域活性化のためのワークショップが始まり、地域ぐるみで地域産品づくりに取り組むプロジェクトがスタートした。

取組内容

○三豊市と地元生産者が連携して市内の魅力的な農産物を6次産業化。キウイ等の「完熟ドライフルーツ」、イタリアントマトの「トマトケチャップ」、スーパーフードとして注目されるモリンガの「モリンガ茶」等、地域の農産物を使った商品を多数開発。
○生産者と商品を掲載したHP制作やSNS等による情報発信。
○展示会、商談会への参加やフェアの開催。

活動の効果

○こだわりの地域産品が完成し、地域のブランド化を推進した。
○地元新聞などのメディアに取り上げられたり、首都圏や関西の展示会やオンライン商談会に参加することで「みとよのみ」の魅力をPRできた。
○三豊市のふるさと納税の返礼品登録などで、徐々に取り扱いが増加して認知度が上がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

販売促進を強化しつつ、地域農産物の魅力をより効果的に発信して、地域ブランドとして成長できるよう地域活性化に取り組みたい。

三豊市高瀬町下勝間2373-1　Tel：0875-73-3040（三豊市農林水産課）

18 香川県三豊市（みとよ）

地産地消　耕作放棄地対策　食育・教育

山本町環境保全会（やまもとちょうかんきょうほぜんかい）

～三位一体！親子Agriプロジェクト～

マンツーマンで教わる農作業

待ちに待った収穫

オリジナル「田んぼっこノート」

経　緯

○平成17年に前身となる「河内アグリ活動組織」が発足。水路・ため池・農道・農地の維持管理を行いながら、学校教育連携・啓発活動にも取り組んでいた。
○　令和2年に町内の組織が合併して構成員約430名の「山本町環境保全会」となる。

取組内容

○地域おこし協力隊と野菜ソムリエプロとの連携企画として、会員制の食育プログラム「田んぼっこ」事業を展開。
○多面的に感性を育むことを考えて、栽培や収穫といった農業体験だけでなく、調理や販売実習なども行っている。
○多くの人が活動に関わって交流できるように、収穫体験などは一般の方にも参加してもらっている。

活動の効果

○質の高い食育活動として認められ、「みんな子育て応援団大賞　四国新聞社賞」を受賞した。
○子どもたちが毎回活動の様子を「田んぼっこノート」に記録することで、表現力の向上など子どもたち自身の成長も見られ、親子間のコミュニケーションが増えると好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

継続的な活動を維持すると共に、人手不足による農産物のロス問題などに着眼して、解消できる仕組み作りにも着手していきたい。

三豊市山本町

19 香川県土庄町（とのしょう）

6次産業化

農林漁業、農村文化体験

鳥獣被害防止

小豆島陽当の里伊喜末（しょうどしまひあたりさといぎすえ）

～農業の大切さや地元への愛着心を伝えたい～

二条大麦プロジェクト　100%産ビールの完成

芋づるの塔

芋掘り体験みんなで写真撮影

経　緯

○瀬戸内海を望む風光明媚な地区だが、過疎化・高齢化が進み、数年前から荒廃地が目立つようになってきた。
○危機感を抱いた有志数名が、地域に活気を取り戻そうと、農業振興と明るく元気な農村づくりをめざし、平成29年度に「小豆島陽当の里伊喜末」を立ち上げた。

取組内容

○ビール醸造所「まめまめビール」と「小豆島陽当の里伊喜末」が協力して、100%小豆島産のクラフトビールを誕生させる「二条大麦プロジェクト」を実施。
○地元の子供達にサツマイモのつる挿しと収穫の体験を実施。
○獣害の防止のため、約2.2kmに渡る被害防止柵を設置。

活動の効果

○麦やオリーブの作付けによって遊休農地が解消されている。
○「芋づるの塔」は芋のつるを自然乾燥させて牛の餌や堆肥にするための古くからの知恵。地元住民と町職員でつくる「よつみいきいき協議会」が2010年から実施しており、子供達にとっても地域の風物詩に触れるよい機会となっている。
○獣害防止柵の設置により、現在では獣による被害はほとんど見受けられない。

応募団体からのアピール・メッセージ

グリーンツーリズムなどのイベント参加の募集や活動の情報発信のためHPを開設し、当地区内の各団体と連携を図り、様々な活動を行って元気な農村にしていきたい。

小豆郡土庄町伊喜末1925　Tel：090−4500−9925

20 香川県土庄町（とのしょう）

農林漁業

企業との連携

地元のオリーヴ農園の活用とオリーブ文化を伝える取り組み

NPO法人オリーヴ生活文化研究所（えぬぴーおーほうじん　せいかつぶんかけんきゅうじょ）

～瀬戸内オリーヴ共和国活動の展開～

オリーヴの苗木と盆栽

樹齢千年のオリーヴ大樹で禅を行うツアー

経　緯

○心と体の健康を追求し小豆島の発展に寄与することを目的として平成21年に設立された。
○小豆島ヘルシーランド（株）との協働で、多くの方々がオリーヴの素晴らしい効果を体感し、文化的側面にも触れられる事業を実施している。

取組内容

○オリーヴの苗を瀬戸内を中心とした各地に寄贈し、全国に栽培技術を伝える。
○「オリーヴの森感謝祭」から発展した「瀬戸内・小豆島リトリートキャンプ」などのイベント開催。
○芸術家村事業やフォトコンテストの開催、オリーヴ盆栽の普及活動。
○学生や地元児童への教育や収穫体験の実施。

活動の効果

○「3万本の苗木をお届けしオリーヴの輪を広げる」を合言葉に、直島町、多度津町、宇部市、周防大島町などに苗木を寄贈することができた。
○瀬戸内オリーヴ共和国活動が「第4回環境省四国環境パートナーシップ表彰　優秀賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

「オリーヴの森」には、はるかスペインからやってきた樹齢千年のオリーヴ大樹があり、訪れた人はオリーヴの持つ素晴らしい力に触れることができます。

小豆郡土庄町甲2695-1　Tel：0879-62-5511

21 香川県小豆島町（しょうどしま）

農林漁業　食育・教育

小豆島町漁業振興協議会（しょうどしまちょうぎょぎょうしんこうきょうぎかい）

～漁業の未来は小豆島の未来！漁業の再生を目指して～

魚のさばき方を紹介

地引網体験

経　緯

○漁業者の減少や消費者の魚離れなど、さまざまな要因から漁業が衰退してきている。
○漁業の再生を目指して、漁業関係者と行政による協議会を設立した。

取組内容

○町内の小学生等を対象に、小豆島の水産業ついて地元の漁業関係者が講師となって出前授業や地引網体験などを実施。
○「小豆島町ふるさと商工まつり」に参加し、海の生き物とふれ合える出店やクイズで興味を持ってもらう。
○漁業者を対象とした研修会の開催や、近県の漁業先進地の視察を実施。

活動の効果

○子どもたちは小豆島の水産業について楽しく学び、漁業に関心を持って理解を深めている。
○魚づくしの体験イベントは、魚とふれ合える、新鮮な刺身を味わえると参加者から好評を得ている。
○漁業者の要望に沿った研修を行っているため、参加者の意欲向上につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

漁業を未来につないでいくため、今後も「魅力発信」「生産・販売強化」「担い手対策」などに取り組み、「瀬戸内海ナンバーワンのさかなの島」を目指します。

小豆郡小豆島町　Tel：0879-82-7026（小豆島町役場）

22 香川県小豆島町（しょうどしま）

棚田保全 | 耕作放棄地対策 | 環境保全・景観保全

小豆島町中山棚田協議会（しょうどしまちょうなかやまたなだきょうぎかい）

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～

復活した伝統行事 「虫送り」

中山農村歌舞伎

経　緯

○中山千枚田では耕作者の高齢化と担い手不足が進んでエリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
○文化や伝統の源である千枚田を守るため、「棚田の村構想」を打ち立て、その具体的な取り組み主体として協議会が設立された。

取組内容

○棚田オーナーを募集し、農作業や伝統行事（虫送り・農村歌舞伎）に参加してもらう。
○香川大学等による農業体験プログラムや小中学校の郊外学習の受け入れ。
○地元の酒造会社と連携して酒米の耕作に挑戦し、小豆島の地酒として販売。
○棚田米と棚田米を使用したアイスをふるさと納税の返礼品にして全国にPR。

活動の効果

○地区外の人たちとの交流により、地元住民が今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、棚田の文化を守らなければという意識が強くなってきた。
○休耕田となっていたところや耕作者が不在となるところで、酒米づくり等を実施することにより休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

中山千枚田は「全国棚田百選」にも選ばれた貴重な棚田です。
小豆島には魅力あふれる観光地が満載！ぜひ、お立ち寄りください。

小豆島町片城甲44番地95　Tel：0879-82-7026

23 香川県小豆島町（しょうどしま）

6次産業化　企業との連携　高齢者の活躍

チームそら豆（まめ）

～そら豆醤油から生まれる笑顔のために！～

沖ノ島から船で乾燥ソラマメを出荷

アレルギーフリーの「そら豆醤油」

経　緯

○大豆・小麦アレルギーで醤油がたべられない人のために、２年の研究を経て商品化した「そら豆醤油」の原料を100％小豆島産にしたいと㈱高橋商店が呼びかけた。
○賛同した栽培希望者が集まり、乾燥ソラマメを生産する組織「チームそら豆」を結成。

取組内容

○醤油の原料となる国産の乾燥ソラマメがなかったため、農商が連携して原料を生産。
○需要の増加に伴い、生産拡大を行い、地域の特産品として製造を維持していくために生産者の増加を呼びかける。
○良いものを作るためにほ場巡回や講習会を行うとともに、生産者とは収穫物を全量買い取る契約を結び、やる気を促している。

活動の効果

○アレルギーフリーの商品需要は高まっており、「そら豆醤油のおかげでいろいろな料理が作れる！」などの声が寄せられ喜ばれている。
○高齢農業者の活躍促進となっており、さらに地元企業との契約栽培によって良いものを作るという目標ができ、生産者の生きがいに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

アレルギーフリー商品の原料供給により社会に貢献でき、高齢農業者の意欲が向上しています。さらに耕作放棄地の抑制につながるよう取り組みたい。

小豆郡小豆島町安田甲142　Tel：0879-82-1101

24 香川県小豆島町（しょうどしま）

鳥獣被害防止 | 食育・教育 | 女性・高齢者の活躍

東條地域農業集団（ひがしじょうちいきのうぎょうしゅうだん）

～子供と心豊かなむらづくりと儲ける農業開始～

農事組合法人 小豆島　設立

子どもたちの田植え体験

経　緯

○昭和58年、基盤整備を契機に農地の受託者を組織化するため、集落営農組織を設立。
○平成14年に青年部を創設。エコファーマー認定を取得、独自ブランド米生産団体として農村環境保全活動に取り組む。
○令和３年、農事組合法人「小豆島」を設立し「儲ける農業」に着手。

取組内容

○減農薬・無化学肥料栽培による安全・安心なブランド米「安田の郷」を栽培。ドローンを使った共同防除も開始。
○収穫祭の開催や産直市場「ファームステーション安田の郷」の開設、農家食堂の運営。
○地元の園児・児童を対象に農作業体験や「どろんこ祭り」、食育活動を実施。
○防護柵等を設置して獣害対策。
○儲ける農業として長命草、そら豆、キュウリ、等の野菜を栽培。

活動の効果

○独自ブランド米「安田の郷」は、毎年大人気で早期に完売してしまい生産が追いつかない状況である。
○米やさつまいもの農作業体験や農産物を利用した食育イベントを通じ、地元の子どもたちの情操教育に貢献している。
○柵で獣害を防ぎ、自作の箱罠などで毎年多くのイノシシを駆除できている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「安田の郷」は、農家の顔と栽培方法が分かり安心して買うことができると消費者から信頼されている。今後も期待に応えられるように栽培技術をさらに向上させたい。

小豆島町安田甲845-3　Tel：0879-82-2333

25 香川県小豆島町（しょうどしま）

6次産業化　地産地消　耕作放棄地対策

まめまめびーる（合同会社ナカタ）（ごうどうがいしゃ）

～小豆島×ビール＝「　　」～

大麦の収穫

定番4種と季節限定商品

小豆島産原料100%
「SHODOSHIMA100」

経　緯

○自然豊かな環境に魅了され、小豆島の素材や環境、伝統を活かしたビール醸造（酒税法上は発泡酒に分類）を平成30年に開始した。
○オール小豆島産のビールを造りたいという思いから、地元農業集団と連携し麦芽とホップの栽培も始めて令和３年春ついに完成した。

取組内容

○小豆島の素材を活かしたクラフトビールを製造。柑橘、醤油のもろみ、ハーブ、米、麹など、島の農産物、特産物を使った定番４種と季節限定商品10種を発売。
○農業集団「小豆島 陽当の里 伊喜末」と連携し、耕作放棄地で小豆島産麦芽・ホップを栽培。
○麦芽、ホップ、水、酵母、すべてが小豆島産のビール「SHODOSHIMA100」を発売。

活動の効果

○小豆島産の醤油のもろみを使った黒ビール「くろまめまめ」が、「かがわ県産品コンクール　知事賞」を受賞。品質の高さが認められ、本来廃棄物となるもろみを活用した点も高い評価を受けた。
○観光客のお土産として人気があり、ふるさと納税の返礼品にもなっている。
○原料がすべて小豆島産のビールは県内外から需要があり、称賛されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

島内の他業種（飲食・宿泊業等）の方々と連携してアイデアを出し合いながら、より幅広く島の素材を活用してビールの魅力を深めていきたい。

小豆郡小豆島町坂手甲769　Tel：0879-62-8670

26 香川県三木町（みき）

6次産業化　農泊　教育機関との連携

株式会社 山南営農組合（かぶしきがいしゃ　さんなんえいのうくみあい）

～限界集落の未来を守る！全員参加型営農組合～

小蓑米

農村レストラン

小蓑の棚田

経　緯

〇山間部の小蓑は良質な農産物の栽培に適した自然豊かなところだが、耕作放棄地の増加が深刻化しており、担い手確保や地域活性化の取り組みが求められていた。
〇ほ場やライスセンターの整備をきっかけに、住民全員参加を原則とした集落営農組織「山南営農組合」を設立した。

取組内容

〇地域ブランド米「小蓑米」の生産・販売。
〇9部会制による組合員の生きがいづくり。
〇産直、レストランに加え農家民泊2棟を開業。
〇地元の高校と連携し、HP「晴ノチコミノ」を開設。集落の中心部に地域案内板を設置。
〇地域内にある希少糖研究センターと連携し、「ズイナ」の栽培や希少糖を含む加工品の生産、販売を行う。

活動の効果

〇組合員全員が「農村レストラン部会」など9つある部会のいずれかに所属しており、得意分野を活かして活動することによって、一人一人が地域で必要な存在であるという「生きがい」を感じている。
〇グリーン・ツーリズムや農家民泊は好評で、体験者は小蓑の魅力に満足してくれている。

応募団体からのアピール・メッセージ

小蓑の美しい原風景を広く知ってもらうため、「棚田ウォーキング」を企画したい。「みんなで楽しみながら」という姿勢を大切にし、「自分たちの村は自分たちで守る」をモットーに地域活性化に取り組める仕組みづくりをしていきたい。

木田郡三木町小蓑928-1

27 香川県三木町（みき）

環境保全・景観保全 | 食育・教育 | 高齢者の活躍

丸岡活き生きクラブ（まろかいきいき）

～集落の豊かな自然環境を守る！ ～

集落住民が大集合！して用水路清掃

定期的に行われる役員会

経　緯

○農地・水・環境保全活動に取り組むため、丸岡営農組合が中心となって結成。
○丸岡集落の豊かな自然環境を守るため、農業者以外にも様々な立場の住民が一体となって活動する。

取組内容

○4月　用水路清掃
○5月　ため池堰堤草刈り、サツマイモ植付
○6月　用水路清掃
○7月　ため池堰堤草刈り
○8月　コスモス畑耕耘、播種
○9月　ため池堰堤草刈り、サツマイモ収穫
○10月　コスモス畑周辺草刈り
○11月　コスモス交流会
○12月　ため池堰堤草刈り
○1月～3月　用水路・水門補修

活動の効果

○コスモス交流会は来訪される方が少しずつ増加し、地域の活動団体も新たに生まれている。
○農業者以外にも様々な立場の住民が一緒に活動することで、丸岡集落の豊かな自然環境を守れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

役員や住民の高齢化が不安材料ではあるが、若手の後継者を育てつつ活動内容を再点検して、有効かつ無理のないものに集中しながら取り組んでいきたい。

木田郡三木町大字氷上5264-4　Tel: 090-8281-3521

28 香川県三木町（みき）

環境保全・景観保全 | 食育・教育 | 高齢者の活躍

三ッ子石池資源保全組合（みつごいしいけしげんほぜんくみあい）

～地域のみんなで明るく・楽しく～

田中幼稚園芋ほり大会

農地を活用したコスモスの植栽

経　緯

○農業従事者の減少・高齢化などにより農家だけでは地域内の農業インフラ及び農業を守ることが困難になってきた。
○地域コミュニティにおける交流も希薄になっており、地域一体となって地域資源である農地、農業インフラの保全管理ができる体制の整備が必要となった。

取組内容

○住民アンケート結果を踏まえた体制整備構想を作成し、地域資源の保全管理、農業後継者の育成・確保及び地域の連携を柱とした活動に取り組む。
○隣接する活動組織と一緒に主要幹線道沿いの農地70aにコスモスを植栽。
○地区内の幼稚園児を対象に「親子連れ芋ほり大会」を実施し、ドローン撮影による「思い出提供」に取り組む。

活動の効果

○集落間のつながりが深まり農家と非農家の交流が促進された。
○コスモス植栽は、県の事業である「さわやかロード」活動にも発展して近隣自治体からも評価されるようになり、環境保全の意識も高まった。
○26年ぶりに新嘗祭の「献穀田」が受益地区内で選定された。

応募団体からのアピール・メッセージ

この活動を可能な限り三木町全体に広げるべきと考えており、高齢化等による活動継続が難しい組織に対する支援（区域編入等）を予定しています。

木田郡三木町大字田中3006番地1　Tel：090-2789-9349

29 香川県綾川町（あやがわ）

農泊 | 教育機関との連携 | 企業との連携

稲木（いなぎ）　健造（けんぞう）

～お米作りで農家民泊と化粧品原料供給～

小学生の田植え体験

海外顧客と五右衛門風呂体験

経　緯

○平成25年度から県独自水稲品種「おいでまい」の低農薬栽培に取り組んできた。
○高松市の化粧品製造販売会社と連携し、特別栽培に切り替えた「おいでまい」を化粧品の原料として供給することになった。
○訪日客の増加によるニーズの拡大を受けて令和2年に農家民泊を開業。

取組内容

○株式会社「アイム」の基礎化粧品「ライスフォース」の原料として出荷するにあたり、エコファーマーの認定を受け、減農薬、有機肥料の使用など安全性を重視した特別栽培にシフト。
○「アイム」が安全性のアピールとブランド確立のため、海外の販売代理店を招待する時に特別栽培の方法や管理状況を説明するとともに、農泊を提供。
○農家民泊「稲木家」を開業し、農家体験希望者を受け入れ。

活動の効果

○化粧品の原材料に使用する特別栽培米作りは、農水省の6次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」の認定を受けた。また、かがわ産業支援財団の6次産業化へのサポートを受け、米の新たな活用法を見いだした。
○農家民泊で農業体験や五右衛門風呂に入ってもらうなど綾川町の自然を体感してもらい好評を得ている。

応募者からのアピール・メッセージ

長期的な視点で、農業を通じた地域経済の活性化や農家の継承者問題の解決を目指し、さらには香川県の自然と文化を世界に向けて発信していきたい。

綾歌郡綾川町北235－1　Tel：090－3180－1473

30 香川県琴平町（ことひら）

移住・定住 | 環境保全・景観保全 | 食育・教育

苗田東環境保全の会（のうだひがしかんきょうほぜんかい）

～住民活動で苗田東の伝統と故郷愛を将来へ～

環境保全のPRポスター

親子で清掃活動

経　緯

○昭和42年に構造改善事業で基盤整備を行い農業中心の地域づくりをしていたが、世代交代や少子化が進んで住民同士の交流が希薄になり、伝統行事の継承が難しくなっていた。
○地区の将来を担う子供たちを交えて環境保全活動を行うことにより、以前のような交流の盛んな地域づくりに取り組むことにした。

取組内容

○子供会と連携して道路沿いに投げ捨てられた空き缶等のゴミ拾いを実施。
○夏休みに子供たちが環境保全や苗田東のPRポスターを作成。９月に象郷農業構造改善センターに展示した後、防水加工して青年部を中心とした地区住民が、ゴミの投げ捨ての多い幹線道路沿いに設置。

活動の効果

○子供を中心とした活動に大人が一緒に参加することで地区住民の連携が密になり、地元を良くしようとする意識が向上した。
○地区の伝統文化である獅子舞に子供達が進んで参加するようになって伝統文化の継承につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

活動内容を発展させるアイデアを誰もが提案できる環境を整備し、若い世代の自主性を重視した活動を行って地区を発展させていきたい。

仲多度郡琴平町苗田436-2　Tel：　0877－73－4860

31 香川県琴平町（ことひら）

伝統の継承　食育・教育

満濃池土地改良区（まんのういけとちかいりょうく）

～満濃池1300年の技術と歴史を未来へ繋ぐ～

毎年6月に催される「ゆるぬき」

かりん会館で満濃池の歴史教育

経　緯

○長い歴史のある満濃池の管理者は時代とともに移り変わってきた。管理規定に基づいた組織的な排水管理を行うため、昭和26年に「満濃池土地改良区」を設立した。
○満濃池の歴史と先人たちの偉業を広く伝えるため、ボランティア団体などの文化活動を支援するに至った。

取組内容

○複雑な水利慣行を次世代に伝えるため、組織体制を整えて後継者を育てている。
○アジア・アフリカ地域の技術者のJICA研修や県外の土地改良関係団体の現地視察を積極的に受け入れている。
○郷土学習の一環として見学に訪れる小学生に満濃池の歴史や文化を伝えている。

活動の効果

○有志が満濃池の伝説をテーマにした紙芝居を町内の小中学校等に配布したり、町が満濃池東側にあった町道を遊歩道に整備するなど、満濃池を核とした多面的な活動が広がっており、地域活性化に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

弘法大師空海ゆかりの満濃池は、地域農業だけでなく渇水時の送水や夏の風物詩「ゆるぬき」に多くの観光客が訪れるなど、広く県下に恩恵をもたらしています。

仲多度郡琴平町榎井500-1　Tel:0877-75-3157

32 香川県多度津町（たどつ）

鳥獣被害防止 | 教育機関との連携 | 学生・若者の活躍

奨励賞

香川県立多度津高等学校建築科（かがわけんりつたどつこうとうがっこうけんちくか）

～若き技術者達が集落を守る！ ～

箱罠制作中

離島（佐柳島）に設置

イノシシ肉の加工品開発中

経　緯

○平成28年以降イノシシによる農業被害が深刻となり、多度津町は対応に追われていた。
○平成25年に町と包括的連携・協力に関する協定を結んでいたことから依頼を受け、令和２年１月に建築科生徒有志による「箱罠製作プロジェクト」が始動した。

取組内容

○部活動の一環としてイノシシ捕獲用の箱罠を製作。製作にあたっては、入手が容易な市販の材料で、複雑な加工は避けて軽量化するなどの工夫を凝らした。さらに捕獲されたイノシシで強度実験を行うなどして改良しながら実用に足る品質に仕上げた。
○ため池の浄化や、施設のライトアップ、休憩小屋の建設などの活動を実施。

活動の効果

○令和２年３月に完成品２基を町に寄贈することができた。実際に、既製品の運搬・設置が難しい離島で猟友会に使用してもらい、微調整を重ねて体重80kgのイノシシを捕獲することに成功した。（８月26日時点で3頭捕獲）
○捕獲したイノシシの肉を有効活用するため、校内で加工品の開発に着手した。
○地域の活性化や問題解決に貢献している。

応募団体からのアピール・メッセージ

引き続き箱罠の改良や追加製作に加え、捕獲したイノシシの肉を有効活用して6次産業化も含めた取り組みを進めていきたい。

仲多度郡多度津町栄町一丁目1-82　Fax：0877-33-2132

33 香川県まんのう町

耕作放棄地対策 | 雇用 | 農家所得の向上

一般社団法人（いっぱんしゃだんほうじん）サンフラワーまんのう

～ひまわりで町おこし‼黄色の魔法がかかる町～

どこでもドアイベント

種子の収穫

イベントでの商品販売

経　緯

○平成元年度から地域おこしとして町内の農業集団がひまわり事業に取り組んでおり、平成28年度からは地方創生事業として町が主体となって活動していた。
○令和3年度より、更なる観光振興と6次産業化による農家の所得向上を図るため「一般社団法人サンフラワーまんのう」を立ち上げ、町や農家と連携しながら町おこしを推進していくことにした。

取組内容

○「ひまわり満開フェアー」として、ひまわり振興協議会と連携して7月に満開になることを県内外に広くPR。ひまわり開花時にJR四国の観光列車が臨時停車するなどコラボイベントを開催。
○町内の子どもたちが種まき、収穫、搾油を行う体験学習の実施。搾ったひまわりオイルは給食で活用。
○町が整備した「ものづくりセンター」を核としたひまわりオイルの製造販売。

活動の効果

○「まんのうひまわりオイル」が、平成30年度の「かがわ県産品コンクール　知事賞」、「優良ふるさと食品中央コンクール　農林水産大臣賞」を受賞し、品質の高さを認められた。
○ひまわり畑を訪れた人々がSNSに投稿することでまんのう町の知名度が向上した。
○子どもたちが農業の楽しさを知り、地域への愛着が深まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

多くの人と協力しながら、ネット販売を強化するなど積極的な販売戦略を立てて事業を発展させ、ひまわりオイルを地域ブランド商品として定着させたい。

仲多度郡まんのう町七箇2529-1　Tel：0877－89－6633

34 香川県まんのう町

6次産業化　棚田保全　耕作放棄地対策

奨励賞

島が峰の原風景を守る会

～初めて会った人達もいつか笑顔のソバづくり～

復活したソバ畑

収穫したソバでソバ打ち体験

ソバの商品化

経　緯

○島が峰地区は標高800mの山あいにある。かつては高冷地野菜を盛んに栽培していたが、人口減少・高齢化に伴い次第に衰退して荒地になっていった。
○状況を憂いた数名の同志が、2016年より荒廃地の開墾から始め、寒暖差を利用したソバ作りを開始した。

取組内容

○荒廃した農地を開墾し、かつての風景を取り戻すために順調に耕作面積を拡大している。
○グリーンツーリズムの一環として、開墾した農地の一部を利用して「ソバの栽培体験」を実施している。
○ソバの花が満開となる9月下旬頃に「ソバの花見会」を開催し、打ち込みソバの無料接待やミニコンサートなどを行っている。

活動の効果

○現在3.2haの荒廃農地を復活させており、徐々にかつての風景を取り戻しつつある。
○復活したソバ畑として県内外で知名度が上がり、若い人も活動に参加するようになって活気があふれてきた。
○見物客が増え、棚畑の美しさに魅了された写真家も多く訪れるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

この地の食文化や風景を次世代に残したいという思いで、会員一丸となって取り組んでいます。今後は6次産業化として乾麺ソバの製品化等に注力していきたいです。

仲多度郡まんのう町川東2467　Tel:0877-85-2111

35 香川県まんのう町

農林漁業 | 6次産業化 | 環境保全・景観保全

ほのやまちいきほぜんかつどうそしき
帆山地域保全活動組織

～ほのやまロード、ひまわりに託す夢と希望～

ひまわり団地

地元小学生による総合学習

経　緯

○営農と農業インフラの維持・管理を行っていたが、農業の担い手確保のために、新たに「農事組合法人ほのやま」を設立した。
○農作業を地元土木建設業者に委託して担い手とする一方、他の組織と連携して地域資源を活かした6次産業化などに取り組んで地域の活性化を目指す。

取組内容

○集落の農道、ため池、水路などの保全や体験学習を実施。
○ひまわりオイル、ドレッシング、米、焼酎など多数の商品を開発。ひまわりの搾りかすを飼料にしたひまわり牛も誕生し、コロッケや肉うどんを道の駅で販売。
○約100万本の開花にあわせ「ひまわり祭り」を開催。ウエディングイベントやフォトコンテストなどを実施。

活動の効果

○県内企業や地元の畜産農家と連携し、ひまわりを活用した特産品が多数誕生した。昨年デビューしたひまわり焼酎「みちる」も非常に好評で、今年は増産することができた。
○「ひまわり祭り」は地域住民の世代を超えた交流を促進し、まんのう町のイベントに発展した。今では県内外から延べ5万人余りが訪れる夏の風物詩になっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「自分達の集落を自分達で守る」ための活動に取り組み、後継者を育てて更なる地域の活性化を目指したい。

仲多度郡まんのう町買田277－1　Tel：　0877－73－5371（事務局　近石）